はりわいな。こりわいな。

今治さくらいの物語

旧櫻井町

旧櫻井町は、江戸期に天領に指定され、明治末期まで漆器行商で栄えた。大正 11 年に発行された「愛媛縣越智郡櫻井町大字櫻井濱地圖」をみると、現在の桜井港は砂浜であり、大川に続く内港が当時の桜井港であった。椀船の港（桟橋の土台のみ）の北側には多くの漆器倉庫が立ち並び、綱敷天満宮の松林を越えて、旭町や常盤町、榮町·新榮町、蛭子町等には漆器業者が集まっていた。古天神神社社（古国分神社）を中心に東西に分けて東天神町、西天神町が位置し、この西天神町から蛭子町に至る大通りが旧櫻井町を南北に貫く今治街道であった。この往還道に沿って、呉服屋や今商銀行、旅館、町役場や駐在所があり、昭和初期には西天神側に桜井劇場が建てられるなど、行政と商業の中心地として賑わっていた。往還道と東西に交差する梅田町 1 丁目から 4 丁目に至る通りが旧櫻井町の中心商店街であり、中狭町、柳町、新榮町に住む多くの人が集まり、活気ある港町の商業地を形づくっていた。古地図を片手に歩いてみると、旧櫻井町の歴史が面白い。

桜井地区地域水産業再生委員会 × 愛媛大学井口梓研究室